

# 教育こども常任委員会 管内視察報告書

令和2年（2020年）11月12日

■視察日時 令和2年（2020年）10月14日（水）  
午前10時から正午まで

■視察委員 委員長 八代 毅 利  
副委員長 一色 風子  
委員 江良 健太郎  
〃 大川原 成彦  
〃 菅野 雅一  
〃 坂上 明  
〃 田中 あきよ  
〃 ひぐち 光冬

■視察先 西宮市立総合教育センター附属 西宮浜義務教育学校  
西校舎（旧小学校校舎）  
西宮市西宮浜4丁目3-12  
東校舎（旧中学校校舎）  
西宮市西宮浜4丁目2-31

■視察事項 タブレット端末を活用した授業について

## ■用務経過等

午前10時頃、西宮浜義務教育学校に到着。

西宮浜義務教育学校の概要と情報機器の整備状況について説明を受けた後、授業見学（①6年生体育、②6年生算数、③7年生社会）を行う。その後、デジタルドリルについて説明を受け、質疑、意見交換を行った。

（正午頃視察終了）

## ■各委員の意見・感想・提言

### 八代 毅利委員長

(感想)

#### 1. 体育の授業について (6年生)

グループに分かれてそれぞれ異なる跳び方の跳び箱を行っていた。

タブレットを使い動画を再生して自分の課題をチェックしていた。

まだまだ使い方に慣れていないが自分のフォームなどをチェックするには非常に有用と感じた。また皆でそれぞれの課題を話し合っていることも成長に欠かせないよい刺激になると思う。

自分のフォームだけチェックしている生徒もいたが他の生徒の良い点からも学ばなければいけないと思うのでその点はグループワークが大切だと感じた。

#### 2. 社会の授業について (7年生)

生徒が古墳の所在地を記した日本地図をみて各々の感じたこと考えたことを文章で提出しそれを先生がピックアップして生徒の考えを詳しく聞いたり紹介したりしていた。

先生も電子黒板で電子教科書を拡大して説明しておりこれは効果があると感じた。

#### 3. 算数の授業について (6年生)

各自が出した答えを表示してそれぞれ説明してもらう形で進めていた。

先生が参考になると思った回答を選んでその児童に自身が考えたことを発表してもらった。児童は図を使って考えたプロセスを説明していた。これはビジュアルでも確認できることからICTの利用効果が大いにあったと感じた。

#### 4. デジタルドリルについて

少し触ってみたが特に英語は声が出ることから発音やヒアリングの勉強にもなり大いに役だつと感じた。

#### 5. その他

(1) 公教育の宿命であるが多様な児童生徒がいることからICTのスキルが低い児童生徒が置いて行かれないように、慌てずICT教育を進めていくことが大切と感じる。

(2) 感染症対策について、当然校内のよく触る箇所を消毒しており、皆マスクをしていたが、教室内は仰々しい感じではなく通常と変わらず自然な感じで良かった。

(意見)

I C Tの活用はまだ緒に就いたところであり当校においてもまだ教師も児童も慣れていないところも見られるが、時間をかけて児童が楽しいと思えるような授業をぜひお願いしたい。それをモデルにして全市展開いただきたい。

その先にオンライン授業の在り方も検討いただきたい。

#### **一色 風子副委員長**

西宮浜義務教育学校でのG I G Aスクール構想の中のタブレットの導入時の現状について管内視察をさせていただきました。

6年生の体育と算数、7年生の社会の授業をそれぞれ視察しました。

タブレットが導入されてからまだ間もないと聞いていましたが、子どもたちはすでにそれぞれが使い方を教え合い、新しい使い方を自分たちでマスターして行っている様子を見ることができました。

体育では、マット運動での自分たちの体の動きを録画しながら確認する様子やタブレットにある教科書を確認しており、その場で課題の感想などを書く姿も見受けられ授業の中で上手に取り入れているように見えました。

算数では、タブレットにある機能を活用しながら一つの問いに対してそれぞれの考え方を表にしたり、数字で表したり、手描きやキーボードで表現し画一的な答えではなく、それぞれの考え方をそれぞれの表現方法で行っているようでした。

その共有は電子黒板で行っており、すでに配置されている機器と共に活用されているようでさらにI C Tの授業は進化しているようです。

社会では、算数と同じくタブレット、電子黒板を活用、またネットで検索し出された質問に対する回答をそれぞれの生徒が調べた結果をもとに考察していました。

新しい機器の導入ですが、そのものを活用しながら児童生徒が学び合いをする様子は、今までの授業風景から変化していく一助になるのではないかと思います。

#### **江良 健太郎委員**

普段、学校教育やI C T環境整備について議論をしますがそれはあくまで机上の空論であり、実際の教育現場を覗かせてもらうということは非常に大切である。私が中学生時代(約15年前)とは大きく教材が変わっている。授業中の質問、回答はI C T端末により教室前方のディスプレイにオンタイムで映し出されるため、授業進行がスムーズに行われていた。体育の授業でもI C T端末を使用し、運動時における体の使

い方や、現状の問題点を子ども達が自ら確認をし改善して、もう一度取り組み精度を上げていくという点は社会にでたときにも非常に効果的であると感じた。

また、世の中で一般的に使用されているワード、エクセル、パワーポイントは一見小学生には早いように感じられたが、一方で早くから使用し慣れ親しむことにより社会で早期に活躍できるのではという可能性も感じられた。

課題としては、子どもたちよりも教員のICTのリテラシーにより、授業内容に差が出るのではないかと懸念はされるがいずれにしても今後、GIGAスクール構想を進めるにつれ問題点は都度生じると考えられる。

## **大川原 成彦委員**

### <事業概要>

同校は、1998年度開校の西宮浜小学校と西宮浜中学校が統合し、本年4月開校した本市初の義務教育学校である。児童・生徒数490名で、1学年1～3クラスと小ぶりの構成だが、6－3制の学年区分から4－3－2制の学年ブロックに編成され、9年間一貫の発達に即した教育課程を通じて、子どもたちの能力や個性を引き出す教育に取り組んでいる。中でもICTを活用した効果的な学習環境は、大きな特徴となっており、市内では先進の取り組みである。現在5～7年生に、一人1台のPCが用意され、様々な授業で活用されている。年度内には、所謂「GIGAスクール構想」に沿って、子どもたち全員への配布となる。

### <体育（6年）>

跳び箱、マット運動の授業でのタブレット活用。子どもたちは、自分のプレーをタブレットで録画し、遅延再生システムを利用して、自分のフォームを確認する。3～4人のグループでお互いに評価しあいながら、フォームを修正していく。自分のイメージとカメラに映った映像には、ずいぶん差があることに気が付き、体をどの様に動かしたら良いかを突きとめていく。授業終了時には、振り返りをする事で、当日の成果や反省点を確認する。手書き文字の変換機能を使いこなす子どもが何人もいる。

### <社会（7年）>

古墳の分布から、その背景を探る。デジタルな教科書は、様々な資料をタブレットに映すことができる。またウェブで検索して、自由に情報を検索できる。先生は、子どもたちの様々な意見を電子黒板で紹介しながら、それをヒントに子どもたちはさらに掘り下げて考えてみる。地理的な条件を考察したり、故人の社会的影響力に言及するなど、様々な角度からの意見がみられた。

### <算数（6年）>

35個の饅頭を用意するのに、3個入りパックと2個入りパックをそれぞれ、何パック揃えればよいか、という問題。各自様々なプロセスでタブレットに書き込んでいく。饅頭の絵を描きながら3個の枠で囲んでいき、残りのところで2個入りにするとか、35は5の倍数だから、5個のセットが7組あればよい、とか様々な答えが導き出される。正解は1つではなく、複数あるが、電子黒板に紹介される自分と異なる友だちの考え方も理解しながら、学習していく。

### <総括>

タブレットPCを利用した授業は、子どもたちが楽しそうに取り組んでいるのが印象的であった。当然、操作能力には個人差があるが、子どもたち同士で教えっこしながら、情報共有ができていく。今後、機材の配備と通信環境の整備が進めば、家庭での学習、オンラインでの学習など、大きな可能性が見込まれる。

### **菅野 雅一委員**

市は今年4月、市立西宮浜小学校と市立西宮浜中学校を統合し、両校の校舎で義務教育期間の9年間の教育を一貫して行う小中一貫校「西宮市立総合教育センター附属西宮浜義務教育学校」を開校した。

西宮浜小学校と西宮浜中学校は人工島の西宮浜内に隣接して位置し、いずれも平成10年4月に開校。両校とも西宮浜を校区としていた。西宮浜の住民の少子高齢化に伴い、両校の児童・生徒が急激に減少し、将来的に統廃合について検討する可能性が高い状況になっていた。しかし、西宮浜は海に囲まれているため、他の地域の学校との統合は難しく、市は両校を小中一貫校とすることで引き続き、西宮浜で学校を存続させることにした。

中学進学時に新しい環境での学習や生活に不適合を起こし、不登校などになる生徒の急増が大きな問題になっている。市は小中一貫校では小学校教育から中学校教育への移行が順調に行われ、こうした状況が軽減されるとしている。

小中一貫校では、小学1年生から6年生の呼び方は1年生から6年生で大きくは変わらないが、中学1年生、2年生、3年生は7年生、8年生、9年生と呼ぶ。1年生から4年生までの4年間、5年生から7年生までの3年間、8年生と9年生の2年間の3つの学年区分をもつ4・3・2制を採用した。

1年生から4年生は「西校舎」と呼ばれる以前の西宮浜小学校の校舎でこれまでと同じように学級担任がほぼ全ての科目を教える。5年生と6年生は「東校舎」と呼ばれる以前の西宮浜中学校の校舎で学級担任が授業をするほか、一部の科目について教科担任による授業も導入している。7年生から9年生までは「東校舎」でこれまでの中学校と同じように教科担任制で授業を行っている。制服は引き続き、現在の中学1

年生である7年生からとした。給食についても全学で実施し、「東校舎」に移る5年生と6年生については、「東校舎」の給食室で調理し、7年生以上と同じメニューで分量を少なくしている。

義務教育学校では、1学年の定員を70人程度としており、その範囲内であれば、校区の児童・生徒だけでなく、市内全域の希望者を受け入れる。9年間を通した外国語教育やプログラミング教育などの先駆的な取り組みを行っている。

10月14日の管内視察では、金地民樹校長らの説明の後、6年生の体育と6年生の算数、7年生の社会を視察した。6年生の体育では、児童は体育館で跳び箱やマットなどを使った器械体操をしていた。それをタブレット端末を使って撮影・記録し合い、自分の体操を動画で確認し、上達するための貴重な情報にしていた。

6年生の算数では、児童は35個の大福を入手するために2個パックと3個パックをどのように購入すればいいかとの課題に対して、タブレット端末を使って数式や図、絵などで回答。先生の元には児童からの回答が瞬時に集まり、先生は電子黒板に掲示してそれぞれの回答を評価した。7年生の社会では、生徒は日本史の古墳時代の古墳の分布状況とその要因についてタブレット端末を使って回答した。

義務教育学校の授業において、タブレット端末は導入されたばかりで、各教科においてどのように本格的な活用をしていくかを検討する。子供たちは皆、タブレット端末の操作に慣れており、積極的に活用していた。タブレット端末について子供たちが主体的に学習するために、有効なツールになると考えており、そのための積極的な取り組みを求める。

## **坂上 明委員**

本年4月に開校した西宮浜義務教育学校であるが、コロナの影響で実質6月開校となった為、当校視察の「本来の目的」とは外れた感は否めないが、タブレットPC使用(5年生～7年生)の6年生体育・7年生社会・6年生算数の授業を観させて頂き、「日本の教育の大変革・GIGAスクール構想」の一端を知る事ができ、わずか3コマ乍ら拝見させて頂いた事で、「今後の自分なりの構想」がみえ誠に意義のある視察であった。

間違いなく教育形態は激変し、教師の在り方や果たすべき役割、指導体制の在り方等、先端技術の活用等を踏まえ、例えば年間授業日数や標準的な授業時間等の在り方、学年を超えた学び等、早急に検討すべき事項を挙げて頂き対処されたい。

尚、本来の視察趣旨ではないが、6年生体育・跳び箱を使った授業について少々触れさせて頂きたい。

1点目、一体何が狙いで行われているのか今一わからない。

2点目、児童の運動能力は当然ながら違いがある事、更にその差が明らかかなところがみえるにも拘らずその配慮が不十分である。

3点目、授業終盤にタブレットを使用し復習に時間を費やしていたが、授業時間数や当授業での児童の運動量の少なさを考えると、そのタブレット使用は例えば宿題にすればよいのではないか。

それともう一つ、「タブレットの置き場所」もいかがなものか。床に無造作に置かれていたが、いずれ運動中の児童が踏むなどしての破損が心配である。テーブルやボックスなどを用意すべきである。

以上、気になった点を敢えて記させて頂く。

最後に、本市初の義務教育学校であるがモデル校として素晴らしい成果を期待したい。併せて当日も申し上げさせて頂いたが、「視察の本来の目的」に沿い、その成果や今後の課題等データが出来た段階で是非本委員会でのご報告をお願いしたい。

## **田中 あきよ委員**

### ①体育（6年）

跳び箱を横飛びで跳び越える様子を、同じグループの子が動画に撮り、直後に本人も見ながら意見交換をしていた。客観的に見るということができ、これまでとは違う体育の授業であると感じた。授業の最後は体育館の前方に集まり、その日の感想をタブレットに書いて送信をして授業が終わるという流れであった。

タブレットを使いこなしている子が多く、児童の操作の問題は無いと思うが、インターネット環境が不安定になるのか、それとも個々のタブレットの問題なのか、つながりにくい場面も見られ、全員が同時に感想を送信する場面では、みんなができていいのかどうか、しっかり確認しなければ取り残される子があるかもしれないと感じた。

### ②社会（7年）

古墳群の分布地図を見て、どのような感想を持ったかと言う問いに、それぞれタブレットから答えるという授業であった。大型テレビに全員のタブレット画面が映し出され、その画面を見ながら先生が生徒を指名して発表していく。ノートはなく、教科書はデジタル化し、紙面はテキスト（ドリル？）を見ながら一時間タブレットを使っていた。机が狭いようで、テキストを置く場所に工夫が必要ではないかと感じた。先生としては、生徒の数だけ画面をすべて確認せねばならず、生徒に目を向ける時間が減るのではないと感じた。

### ③算数（6年）

担任ではなく、中学の数学の先生が授業をしていた。一問を一時間かけて理解を深めると言うことで、問いに対して何通りかの解き方があり、それぞれ個々に考えて、その解き方が大型テレビに映し出されていた。手書きで記入する子もあれば、キーボー

ドで記号を使いながら打ち込む子もあり、使用方法もそれぞれであったと思う。あまり生徒どうして教え合うなどの様子は見られなかったけれど、授業内容にしてもタブレットの使用方法にしても教えあいの経験が増えることも良いと思う。

#### ●質問より

- ・教育の質を上げていくため、何年生にどの教科でタブレットを使っていくのか、検討中である。
- ・今年度は、指導主事が入ってすべての教科でやってみる。
- ・タブレットの使い方習得を目的に授業をするのか？授業の中で習得していくのか？については、授業に効果的に使っていく。
- ・特別支援教室の児童生徒については、これまでPCを使っていたが、タブレットが使いやすいと思うので、12月までには全学年揃う予定。
- ・スカイプを利用した交流は可能性が広がる。

#### ●感想

今回の視察のために校長先生はじめ、教育委員会の皆さんにお世話になりました。そして何より、視察をさせていただいたクラスの生徒さんや先生には貴重なお時間をいただき感謝申し上げます。視察と言うことでいつもと違うところはあったかとは思いますが、タブレットを使った学習はまだ本市では始まったばかりで課題は多くあると思います。

それらを鑑みて、今後、全市で取り組むにあたってできるだけデメリットを減らすべく検証検討していく必要性を感じています。その為には、児童生徒や先生の率直な意見交換ができる場を設けることも大切なところだと考えます。

#### **ひぐち 光冬委員**

自分が学校教育を受けていたときとは随分変わったなあと感じた。タブレットの活用により、自分で自由に調べることもできるし、意見の共有もスムーズにすることができる。それらの意見を見比べて活発な議論を交わすこともできる。まだまだ使い慣れておらず不十分な点も見受けられたが、様々な可能性を感じさせられる視察だった。

以下、具体的に良かった点と不安に感じた点を記す。

#### 【良かった点】

- ・体育の授業で自分の演技を撮影し、自分で自分のフォームを確認できること。
- ・自分の意見等をすぐさま全員で共有できること。
- ・意見等の共有により、議論がやりやすくなること。



- ・紙媒体によるやり取りのコスト（時間・お金）が省けること。

**【不安に感じた点】**

- ・それぞれの意見がスムーズに共有できることは素晴らしいことだと思ったが、一方で自分の意見を表明したくない児童・生徒にとっては負担になっていないだろうかということ。
- ・体育で側転の練習をしていた子が「どうやったらもっとうまくできるかなあ？ネットで調べてみよう」と言って、インターネットで側転のやり方を検索しようとしていた（フィルターがかかっており、結局検索できていなかったが）。先生に聞かずとも自分で調べられるようになれば、先生が必要なくなってしまうのでは？と不安になった。
- ・現場で坂上委員が指摘していたが、タブレットを活用しようとするあまり、逆に“非効率的”になっているのではないか？と思われるところもあった。これは慣れの問題だと思うが、タブレットに固執しすぎてしまわないよう注意が必要である。

■視察風景

(6年生体育)



(6年生社会)



(集合写真)

